

基本情報						
教科・科目		高2数学 数学B 理系特進		・授業で使用するもの 数学B Standard (東京書籍)、数学C Standard (東京書籍)		
担当者		佐野				
評価割合(試験:試験外)		試験 :6 試験外 :4		試験外の40%は、小テストやレポート課題などで判断する。 数学は自らの考えを書くことにより表現する学問であるので、丁寧な解答の記述など、考えの足跡を残すことを積極的に評価する。		
年間を通じて教科で培う力		鍛錬(知識及び技能)		具体的な事柄や事象についてモデル化する、一般化する、批判的に捉えるなど、事象を数学的に解釈し、数学的に表現、処理する力を培う。また、多様な事象を数学的に表現・処理するために必要な式の計算の仕組みや関数、図形の性質等についての理解を深める。		
		理知(思考力・判断力・表現力等)		直観や論理的な思考をもとに、事象を定義化したり定理を導いたりしながら課題の解決を図るとともに、多様な考え方について論理的整合性について議論し、その正誤について知的なコミュニケーションを通して受け入れることができる。		
		探究・睿智(主体的に学習に取り組む態度)		社会での数学の役割に気づく、数学的な思考のよさを実感することを通して、数学の学習の意義を高めながら、自身で課題設定を行い、主体的に学習する態度を養う。		
学習情報						
月	回	単元名	単元目標(到達状態)	学習内容	活動内容	評価方法・ポイント
4	6	数列	・等差数列や等比数列など、ある規則を持った数列の一般項や総和を求めることができる。 ・数列の一般項や総和に関する証明を理解し、再現できる。 ・総和 Σ の記号を用いて数列の和を工夫して計算できる。	・ある規則をもった数の並びを考えることで解決できる現実の問題を考察し、規則を用いたり数列の言葉で記述したりすることのよさを学ぶ。 ・特徴的な数列の具体例を観察し、一般項や総和を帰納的に予測する。 ・教材を通して、予想した性質の成立を示す方法を考える。 ・数列の一般項や和に関する問題を解くために、確認した性質を利用する。	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
5	12	漸化式と数学的帰納法	・漸化式を解き、一般項を求めることができる。 ・数列の隣り合う項について成立する法則を漸化式で記述することができる。	・ある規則をもった数の並びについて、隣り合う項の性質を漸化式で記述することで一般項を求めることができることを学ぶ。 ・数学的帰納法の原理を学び、問題を通して実際に利用する。	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
6	定期試験① 令和8年 6月3日～6月5日					
6	6	漸化式と数学的帰納法	・数列の隣り合う項について成立する法則を漸化式で記述することができる。 ・いくつかの具体例から帰納的に予測した性質を証明できる。	・数学的帰納法の原理を学び、問題を通して実際に利用する。	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
6 7	15	平面ベクトル	・3点が一直線上にある条件などの、図形の性質が成立する条件をベクトルの記号を用いて表現することができる。	・ベクトルの計算とその図形的意味を学習し、座標による点の位置の表現との対応を学ぶ。	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
7	定期試験② 令和8年 7月15日～7月17日					
9 10	18	ベクトルの応用	・平面上の点の位置ベクトルを計算することと、図形の性質を用いて辺の比などを求めることを、相互に行うことができる。	・三角形の重心など特徴的な図形の点の位置を考える問題を通して、位置ベクトルの計算とそのよさを体感する。	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
10	定期試験③ 令和8年 10月21日～10月23日					
10 11	12	空間におけるベクトル	・空間上の点が同一平面上にある条件など、空間図形の性質について、ベクトルの記号を用いて表現できる。 ・直線と平面の交点などの空間上の点について、位置ベクトルに関する条件に言い換えて、これを求めることができる。	・空間ベクトルも平面ベクトルと同様に計算できることを確認し、平面ベクトルの公式や諸性質を空間ベクトルへ一般化する。 ・座標空間では計算が困難である点の位置について、空間ベクトルの性質をどのように組み合わせれば解決できるか考える。	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
11 12	12	標本調査 確率変数	・標本調査の意味を理解し、その必要性が分かる。 ・確率変数の計算ができ、くじ引きやさいころなど実際に試行を繰り返して期待値や分散、標準偏差が理解できる。	・標本調査と母集団 ・確率変数と確率分布 ・確率変数の平均や分散、標準偏差の計算 ・確率変数の和の平均、積の平均	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
12	定期試験④ 令和8年12月9日～12月11日					
1 2 3	17	確率分布 正規分布	・二項分布の意味を理解し、正しく平均や分散を求めることができる。 ・正規分布の意味を理解し、正しく平均や標準偏差を求めることができる。	・二項分布の平均と分散 ・正規分布の平均と標準偏差 ・正規分布の標準化と二項分布の正規分布による近似	・講義 ・課題演習 ・グループワーク	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト
3	定期試験⑤ 令和9年 3月4日～3月6日					